

第 74 回町田市環境審議会 議事要旨

【日時】2019年8月19日（月）18：30-20：30

【場所】町田市庁舎2階 会議室2-1

【出席者】

委員：川瀬委員（会長）、堂前委員（職務代理）、根本委員、鳴海委員、高田委員、大庭委員、渋谷委員、坂本委員、大平委員、藤田委員、宿野部委員、石田委員

事務局：環境資源部 荻原、環境政策課 宮坂、川瀬、土志田、坂牧、井上、香山、伊藤
環境・自然共生課 藤原、菱谷、浅野、粕谷

傍聴：0名

【資料】

資料1：評価・提案事項一覧と補足説明について

資料2：「第二次町田市環境マスタープラン」、「町田生きもの共生プラン」2018年度進捗状況の点検評価について（案）

【議題】

「第二次町田市環境マスタープラン」「町田生きもの共生プラン」2018年度進捗状況について

- 事務局から資料と進め方について、説明を行った。

基本目標1 地域で取り組む地球温暖化の防止

- 事務局から、説明を行った（以下、基本目標ごとに同様に説明）。

川瀬会長：評価点と評価理由について、ご意見をいただきたい。評価点は2.8であった。評価理由については、他委員への質問や報告書の記載が意図していた内容と異なるなど、お気づきの点があるか。もしなければ、提案事項についての検討に移りたい。

鳴海委員：「提案として報告書に記載する」というのは、具体的に活動を次年度から始めるということか。

事務局：各課で出来る限り、提案を取り入れた形で進めていく。来年の審議会で今回いただいた提案について状況を報告し、PDCAを回していく。

川瀬会長：市長に報告するのは資料2の内容ということでよいか。

事務局：そうである。

基本目標2 自然環境と歴史的文化的環境の保全

川瀬会長：環境マスタープランと生きもの共生プランをあわせた評価である。基本目標2は評価が高いが、評価点、評価理由についてどうか。また、審議会としての提案事項はどうか。

堂前委員：資料2、3ページ、「市内の緑地管理の強化が望まれる」について、緑地管理に関して活動する市民が高齢化している。管理を市でまかないきれない以上は、

市民の参加を応援していくしかない。その部分を盛り込めないか。例えば、「市内緑地管理の強化が望まれ、市民の積極的な参加を市として支援していかなければならない」ではどうか。また、総括も、生きもの共生プランでの生きもの調査や学習会だけでなく、市民の活動への参加を応援する内容を入れられないか。現状から考えるとそういった部分が必要かと思う。

川瀬会長：2点ご意見をいただいた。事務局はどうか。

事務局：市民の参加について、ご提案いただいた内容を追記する。

川瀬会長：市民に参加していただく中で、市内の緑地管理の強化が進められていくことが一つの望ましい姿を作っていくのではないか。また、総括文の中でも、日頃の活動への参加というようなニュアンスを加えることで、文章が厚みを持ち、尚良くなる。

基本目標 3 持続可能な循環型社会の構築

川瀬会長：廃棄物の基本計画と環境マスタープランには策定時点にずれがある。調整が難しい。今後の課題として、次期の環境マスタープラン策定の際に、その辺りの調整をやっていただけるのではないか。評価点、評価理由について、質問等はあるか。提案事項についてもどうか。他の基本目標と比較して、評価点は低くなっている。

鳴海委員：低い評価点をつけたが、それは数値目標があり、そこに結果をコミットしようとしてできているか、できるのかというところで点数をつけている。施設の建設に依存してしまい、市民の努力が評価できていない。評価指標を今からでも多少工夫することで、市民の努力の効果が前向きに反映される、かつ、評価も高くなるような評価のプロセスを変えることは可能か。

川瀬会長：評価を1つにまとめるのではなく、市民サイドからの評価を行うなど、評価の方法についてどう考えるか。

事務局：2017年度に後期アクションプランを策定し、目標を立てている。策定時の目標を、できなかったことも含めて最終的に評価するというのが計画の大きな考え方である。成り立たない目標は例外であるが、今のところはこの計画については、変更を予定していない。次の計画の際に、ご指摘の考え方は活かしていきたい。

川瀬会長：次期の計画策定時にその辺りが大きな検討課題になるかと思う。

大平委員：循環型社会の構築は、地方行政や地域住民が貢献しやすい課題であると思う。比較して、地球温暖化は雲をつかむような話で、地域でできることは限られている。その、できるはずの課題の評価点が一番低いのは問題である。市としても住民としても、もっと頑張らなければならないということを指摘しておきたい。

高田委員：プラスチックの使用削減の意識啓発が対策として書かれているが、一般論で具体性がない。結果として、委員の評価が低いのかと思う。資料1、20ページの8で、事業者への指導を提案しているが、結果は一般論になっている。14もマ

イボトル用の給水器の設置を提案したが、イベントでやっているとのことで恒常的に進められてはいない。意識啓発の具体的な策を進めていくと評価が上がるのではないかと。私の大学でもペットボトルを学内からなくそうと2つ取り組みを実施している。1つは、マイボトル用の給水器を30台、リースで設置することを決めた。年間150万の費用だと聞いている。市の関連する公共的施設にそのくらいの予算はさけるのではないかと。もう1つは、自販機のペットボトルをアルミ缶に変える。これは大学の理事が日本コカコーラに交渉した結果、実現した。このような具体的な策が盛り込まれ、委員に見える形になるときちんと評価ができる。

川瀬会長：一般的な内容ではなく、具体的な提案ができることと良いのではないかとということであった。

事務局：一般廃棄物資源化基本計画の中で、具体策を盛り込むよう検討したい。

川瀬会長：具体化を目指して行政の方でも努力をお願いしたい。

基本目標4 良好な生活環境の創造

川瀬会長：評価点は高い。提案事項も含め、ご意見やご質問はあるか。

(特になし)

基本目標5 環境に配慮した生活スタイルの定着

川瀬会長：評価点、評価理由、提案事項についてご意見、ご質問はあるか。

根本委員：報告書の主な提案事項1点目、アンケート結果の分析について、「日常生活の心がけでできるもの、実施効果が高いものに分けて測定しては」と記載いただいているが、「分ける」のではなく、「取り出して」とすると、より元の意図が伝わる。「再生可能エネルギーを導入する」や衛生的な観点から実施する人が減っている「お風呂の残り湯の利用」といった項目を外し、やりやすい項目、あるいは効果が高い項目をどれだけやっているかを取り出した評価の仕方にしてはというのが、元々の意見である。表現の仕方としては、「心がけてできるもの、実施効果が高いものなどに」としていただくことでも意図が伝わると思う。

事務局：表現を修正する。

堂前委員：資料1の22ページ項目3で、学校に環境副読本を配布しているとあるが、学校で実際に使用されているかまで追いかけているか。

事務局：市内の全市立小学校42校に毎年調査を実施している。

堂前委員：それも評価項目になるのではないかと。

事務局：重点事業で指標としており、2018年度は42校中38校で使用したという結果であった。

川瀬会長：基本目標ごとの確認が終わった。引き続き総括について検討したい。先ほど、堂前委員から、日頃の活動についての文面の追加意見があった。他はどうか。

根本委員：再生可能エネルギーは電力契約の制度が変わっている。10年前は太陽光発電

パネルを買うしかなかった市民が、今は電力を選択できる。プラスチック問題もそうだが、変化への対応が 10 年計画の難しいところである。計画の途中でも変化が取り入れられるよう、何か文言を追加できないか。

川瀬会長：世の中が変わるので、10 年計画の環境マスタープランや生きもの共生プランがうまく対応できるような行政手法についてはどうか。町田市だけではなく、他自治体でもこの問題は抱えているかと思う。

事務局：指標でもご指摘をいただいていた課題である。10 年の計画期間中に、価値観が変わってしまう、新しい基準が出てくるということは多々ある。指標を変えることは難しいが、視点を加えるなど、やり方で補える形がないか、課題として考えていく必要がある。

川瀬会長：この報告書は審議会の意見なので、行政との違いがあっても構わないと思う。根本委員からご意見いただいた点を「検討されることが望まれる」という形で、可能な限り報告書に盛り込むよう、事務局と調整したい。

根本委員：お願いしたい。

鳴海委員：総括の 5 行目、「目標値と現状値に乖離」とあるが、それは震災後の排出係数の変化や施設の建設状況に依存している。例えばエネルギー消費量が 2010 年頃から下がっているように、市民の努力が足りないということではなく、違う要因で目標と現状に差ができています。それが分かるような表現が良いのではないかと。

川瀬会長：他の委員のご意見にもあったように、政府レベルの問題、自治体レベルで対応した方が良い問題、市民が対応できる問題がある。市民が対応できるものについて市民の努力がここまで実現できたなど、次元を整理し、可能な限り行政プランの中で指標化して評価できるように持っていきたいものである。その辺りの表現も、事務局と打ち合わせして総括に加えたい。表現については、ご一任いただければと思う。

渋谷委員：相模原市ではプラスチックを分別している。買い物時などプラスチックの包装がかさばることを実感しており、町田市でも早くプラスチックの分別収集が進むと良いと思う。一方で相模原市はレジ袋などでごみを出しているところ、町田市はごみ袋が指定されており、それが定着しているのは良い。レジ袋の有料化など、今後変わってくる部分もある。町田市のプラスチック分別収集もうまく進むと良い。

川瀬会長：自治体によってある部分は進んでいて、ある部分は遅れているというのは色々あるかと思うが、レベルの高いところにあわせていく努力は行政でも続けていきたい。他にないようであれば、これらをまとめて審議会の意見としたい。

- 事務局から今後のスケジュール、次期計画について説明を行った。
- 各委員から 2 年間の感想をいただいた。

川瀬会長：本日の審議会はこれで終了といたしたい。